

ここでは役場で行っている環境マネジメントシステムの内容や取り組みについて紹介します。

今回は、6月29日に行われた、平成20年度独自目標の監査結果について報告します。

土幌町長
小林 康雄 殿

独 自 目 標 監 査 報 告 書

平成20年7月10日
主任監査員 東村 達夫
副主任監査員 国府田 諭

1. 監査日時

平成20年7月10日（木）13:30～

2. 監査対象

土幌町

3. LAS-E監査内容

独自目標(平成19年度実績)監査

- ①エコアクション（環境活動）部門 第1ステージ（A110）
- ②エコマネジメント（環境経営）部門 第1ステージ（B110）
- ③エコガバナンス（環境自治）部門 第1ステージ（C107）

4. 監査結果

LAS-E項目評価 ①A110： × ②B110： × ③C107： ○

独自目標			LAS-E規格項目別評価	
番号	内容	達成状況※1	部門（項目番号）	評価※2
D101	温室効果ガスH18比較 2%減	○	エコアクション部門(A110)	×
D102	電気使用量H18比較 2%減	×		
D102	ノーマイカーデー月1回 実施率50%	○		
D104	廃棄物排出量H18比較 2%減	×		
D105	公用車使用燃料H18比較 2%減	×		
D106	水道使用量H18年度 現状維持	○	エコマネジメント部門(B110)	×
D107	LAS-E関係職員研修年 2回以上	○		
D108	各課LAS-E取組内容の確認	×	エコガバナンス部門(C107)	○
D109	環境ニュース年 3回以上発行	○		

※1 ○=達成 ×=未達成

※2 ○=良好 △=軽微だが改善すべき点あり ×=勧告に値すべき点あり
詳細は別紙に示す。

5. 所見

【全体評価】

独自目標の平成 19 年度取り組み結果の監査を行い、エコアクション部門：×、エコマネジメント部門：×、エコガバナンス部門：×と評価しました。

エコアクション部門については、6 つの目標のうち達成が 3 つ、未達成が 3 つありました。未達成が半数あり、その原因について分析・把握が行なわれていなかったため、×としました。

エコマネジメント部門については、昨年と同様、2 つの目標のうち各課 LAS-E 取組内容の確認（D108）が未達成でした。昨年の×の評価を受けて改善に取り組んだことは認められますが、芳しい結果とは言えないため、今回も×としました。

エコガバナンス部門については、環境ニュースを年 3 回以上発行（D109）が達成されており、○と評価しました。

全体として厳しい評価になりましたが、その理由は、単に未達成の項目が多かったからではありません。システム運用の中で、数値目標を設定して取り組むことの意義の理解不足が目立ち、改善が必要と判断したからです。

エコアクション部門で数値目標を設定した項目は、使用量などのデータを各職場・施設で記録し、事務局に集約する流れになります。このデータを分析し、各職場・施設の状況と照らし合わせることによって、取り組みの有効性、問題点、課題などを明らかにできます。これは目標の達成・未達成のいかんに関わらず重要であり、その後の目標設定や取り組みの検討にあたっても不可欠なプロセスです。

今回、排出量が大幅に増加した廃棄物をはじめ、エコアクション部門における十分な分析や考察が行われていませんでした。全体的にデータの記録と集約は確実に実行されており、事務局で分析・考察を加えるための条件は整っていると判断できますので、今後の改善をぜひとも要望します。

【個別事項】

公用車燃料については、目標は未達成でしたが、平成 15 ～ 17 年度と比べると、走行距離がかなり増えたにもかかわらず燃料使用量は少なくなっています。軽自動車への転換など、使用車種での対策が効果を上げており、積極的に評価できます。

CO₂ 排出量が昨年度に比べ削減されている一方、CO₂ に関係の深い電気使用量は昨年度より増えています。灯油など電気以外の CO₂ 排出源の使用量が減ったためですが、灯油などは独自目標に含まれていないため、目標達成状況だけを見ると分かりにくい面があります。CO₂ 排出量の計算過程など、住民の理解を深める材料の提供も検討されることを望みます。

エコマネジメント部門のうち、目標未達成となった各課取り組み内容の確認については、毎月取り組むことができなかった職場の実状や課題に即し、事務局からアドバイスを行うなどの工夫が必要と思われます。

